

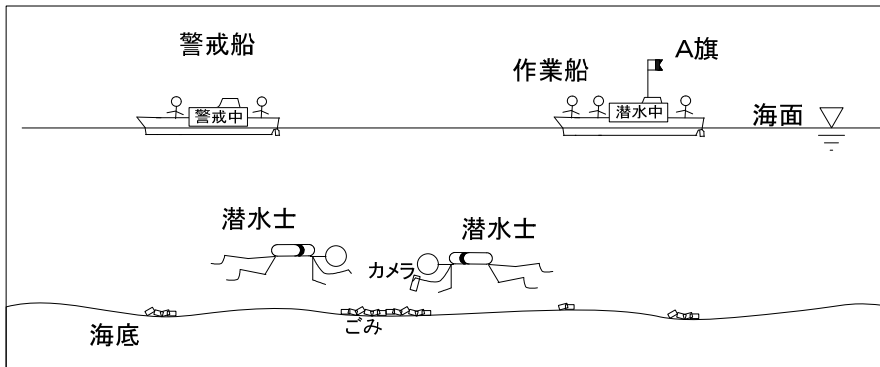
# 潜水士調査

香川県環境森林部環境管理課

## 調査目的・方法

海底に堆積しているごみの堆積状況を把握するため、調査対象海域(5海域)において、船上目視及び潜水目視調査を実施しました。

まず、ダイバーによる海底堆積ごみ調査地点を特定するため、船上から操作できる水中カメラを使用し、海底堆積ごみが堆積している地点を特定し、GPSにより場所を記録しました。その後、特定した地点において、ダイバーによりごみの堆積状況の映像撮影を行うとともに、主なごみの種類について目視で把握しました。



## 調査海域

調査対象海域の選定にあたっては、底びき網の操業禁止区域やノリ養殖場の周辺、河口部など、通常はごみの回収が実施されていない箇所を中心に選定を行いました。

具体的な潜水調査の実施場所については、漁業者へヒアリングを行い、海底堆積ごみが多いと回答があった海域を中心に5海域を選定しました。

(潜水調査実施海域)

- A(観音寺市沖)・・・ 燧灘側の河川から流出し河口付近に沈積したごみの状況を把握する。
- B(丸亀市沖)・・・ ノリ養殖場周辺で、かつ流量が大きい土器川～金倉川河口部付近の海底沈積ごみの状況を把握する。
- C(高松市沖)・・・ ノリ養殖場周辺で、本津川、香東川河口部付近の海底堆積ごみの状況を把握する。
- D(さぬき市沖)・・・ 1回目の調査(試験操業)時に海底沈積ごみが多かった、鴨部川河口部付近の海底沈積ごみの状況を把握する。
- E(東かがわ市沖)・・・ 海底沈積ごみが多かった、ノリ養殖場周辺の海底沈積ごみの状況を把握する。

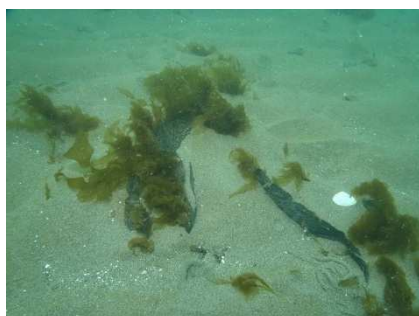
## 調査結果 A 観音寺市沖

船上目視調査及び潜水目視調査では、ほとんどの地点で海底堆積ごみの沈積は確認できませんでした。海底でのごみの沈積状況や海底地形の状況(サンドウェーブの形成)によると、河川から流入したごみの大部分は、波によってさらに遠くへ運ばれるか、砂や泥に覆われていくと推測されました。



## 調査結果 B 丸亀市沖

船上目視調査及び潜水目視調査では、ほとんどの地点で海底堆積ごみの沈積は確認できませんでした。海底でのごみの沈積状況や海底地形の状況によると、河川から流入したごみの大部分は、砂や泥に覆われていくと推測されました。



## 調査結果 C 高松市沖

船上目視調査及び潜水目視調査では、ほとんどの地点で海底堆積ごみの沈積は確認できませんでした。海底でのごみの沈積状況や海底地形の状況によると、河川から流入したごみの大部分は、砂や泥に覆われていくと推測され、海底には相当数のごみが埋没している可能性が考えられました。また、海藻が繁茂している様子もみられ、ごみを発見しにくい要因の一つとなっているほか、ごみに付着している可能性が考えられました。



## 調査結果 D さぬき市沖

調査海域A～Eの中では最も多くの海底堆積ごみが確認されました。河口付近の段差となっている部分に葦や金属類(缶等)が大量に沈積しており、河川から流出したごみの大部分は、河口部付近に沈積していると推測されました。



## 調査結果 E 東かがわ市沖

船上目視調査及び潜水目視調査では、ほとんどの地点で海底堆積ごみの沈積は確認できなませんでした。海底でのごみの堆積状況や海底地形の状況によると、河川から流入したごみの大部分は、砂や泥に覆われていくと推測されました。



## その他

潜水調査で確認されたごみは、調査した海域全域でビニール類や缶をはじめとする生活ごみはその大半を占めておりましたが、まれにタイヤや電化製品などの粗大ごみも発見されました。



扇風機



タイヤ



電池



賞味期限の記載された缶のフタ



賞味期限の記載された缶



堆積したロープにビニール袋が絡まっている状態